

おお大勝利

平成 23 年度山東サッカー部報第 22 号 (11 月 17 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

地区一年生大会 ブロック予選突破！

11 月 13 日 (日) 村山地区一年生大会のブロック予選が開催されました。他のブロックは 12 日 (土) に行われたのですが、12 日は Y1 優勝の日大山形が秋田県県リーグ 1 位の西目高校とプリンスリーグへの昇格をかけた決定戦があり、日大山形を含むブロックのみ 13 日に行われました¹。山東はこれまでの 5 年 (顧問今野が赴任以降)、一年生大会にて全敗²。**6 年目の今年こそ最低でも一勝したい**という低い目標を掲げ試合に臨みました。

場所は日大山形 G。第一試合の日大ー山南は、1 対 1 の激戦を PK 合戦にて山南が制し、2 回戦にコマを進める。第二試合は、山形東ー山形工業。お隣同士の対決³。試合が始まると、オフサイドにかかるものの山東の FW やサイドハーフが山工 DF ラインの裏に抜け出すことしばしば。山工の DF ラインが恐ろしく高い (山東ゴール方向に上がってきている)。何回かオフサイドになるものの、山東のパスがつながる良い流れ。前日、2 年生相手にファイトした好影響か (2 年生対 1 年生の大ゲームは 2 年生の貫禄勝ちでしたが)。

「FW ながらパス回しばかり考えてゴールへの意識が薄い、卵を産まない雌鶏は食肉にされるだけだぞ！」と試合前に脅されたワントップ (一人だけの FW) のコテッチャンが、試合早々に DF ラインを抜け出し、GK との 1 対 1 を冷静に決め先制。「まだ、卵一個だけ、あと二・三個産まないと食肉に回すぞ」とベンチではたたみかけるも、ピッチ・ベンチとも良い雰囲気。しかし直後、山東 DF の悪い対応が連続し、GK がぼさっとしているところを山工にファインシュートを決められ、1-1 の同点に。「やれやれ、こんなに主導権を握っているのに、(同点なんて) 青いな～」とぼやくも、しばらくして左 MF マサノブが追加点を決める。その後、ボランチのヨシタカが、**来春まで取っておいてほしかったくらいのスーパーロングシュート**を決め、3-1 に。コテッチャンも追加し、前半 4-1。ハーフタイム、先発メンバーに、「もう一点追加したら控え選手を全員出すからがん

¹ 仙台で行われた昇格決定戦は 3-0 で日大山形が勝利し、来期の日大山形のプリンス昇格が決定しました。日大山形の 3 年生 (で 12 日プレーできる者) は選手権予選で敗退後も練習を続けました。**おめでとう、日大山形!** ちなみに、今期プリンスリーグ東北 2 部で 5 位だった羽黒高校は、①プレミアリーグ EAST (東日本リーグ) にて尚志高校が降格し、かつ、②プリンスリーグ東北 1 部優勝の聖和学園がプレミアリーグ EAST への昇格決定戦に敗れた場合、玉突きで、山形県リーグ Y1 に降格となります。その場合、Y2 から昇格予定の羽黒 B は、A と B が同一リーグに所属できないというリーグ規定により Y2 に残留し、上山明新館が Y1 に昇格します。尚志高校のプレミア残留、または、聖和学園のプレミア昇格がかなった場合、羽黒はプリンス 2 部残留で、羽黒 B (とモンテユース B) は Y1 昇格、今期 Y1 で 7 位だった新庄東が (日大の昇格で 1 チーム枠が生じたので) Y1 残留となります。

² ちなみに、今野が赴任する前年 (晃先生の最終年) は、ナオヤ (現 1 年生のコテッチャンの兄) の代が一年生大会にて優勝しています。

³ 学校が本当に隣接しており、グラウンドはつながっており、プールは共用。山東にいても山工のチャイムがうっすらと聞こえてくるほどです。

ばれ」と気合を入れて送り出すと、逆に！ 気持ちを入れ替えた山工に1点返され4-2。しかしその後、順調に加点でき、6-2に。一年生全員にユニフォームを配ったため、マネージャーに転向したサブちゃん⁴にも、「出るか？」と訊くと、出たそうにしている。故障がちで練習もあまり出来ていないミズキを含め、控えメンバー5名を順々に交替させる⁵。交替出場したチクテツ、サチク、ユウダイが躍動し、7点目を奪いかけますが、シュートの正確性を欠き、数回あったチャンスをフイに。しかし、交替メンバーも持ち味を十分に発揮し、6-2の快勝にてタイムアップ。**フレーでできる喜びからか、サブちゃんがミスをして笑顔でプレーしていたのが印象的でした。**ともかく、最低一勝の目標はクリア。

二試合目の相手は山形南。先発選手のうち4名が、**一部の指導者間で名監督と噂されているS木監督**率いるASCYフットボールクラブ出身。これは厳しい戦いになるな〜と思っていると、前半はやはり山南ペース。何度か危ないシーンがありました。二年生も、模試を終え、前半のうちに応援に駆け付ける。先輩の応援を受け、前半0-0。後半は風上に立った山東のペースか。特に、右MFのリクが粘り強い縦への突破でチャンスを数回作りだす。特にタイムアップ直前にゴールそばを抜け出し、「決めてください」というメッセージが聞こえてきそうなグラウンダーのセンターリングを上げますが、決め切れず、そのままタイムアップ。PK合戦へ。初戦もPK合戦を勝ち抜いた山南の有利かな〜と漠然と思いましたが、なんと一人目の選手のボールを、**GK 歴半年のヒデアキがファインセーブ**。単に止めたという結果だけではなく言うのですが、右に飛んでボールを弾いて横に倒れた体とピッチとの角度が理想的とされる垂直になっており、非常に格好良かったです。その後、山東の5名全員が決め、山東の勝利。

(顧問の)目標一勝だったのですが、これで23日行われる決勝トーナメントに残ることができました。次戦の相手は、前年度優勝にして今年度優勝最有力候補のモンテユース。当たって砕けろの精神でがんばりますので、応援よろしくをお願いします。

11月23日(水) 地区一年生大会準決勝 VS モンテユース @山形中央G 9:30~
それに勝つと同場所にて 決勝戦 VS 山形中央と山本学園の勝者 14:10~

前号にて、主将が全員を退部させ県優勝を目標にできる部員だけ再入部させることにした、とお伝えしました。顧問はヤル気のない者はこれを機に辞めるかもしれないな〜などと思っておりましたが、全員再入部を果たしたとのこと。「これでは三日間の部活休みがほしかっただけではないか」などと思い、部活に行けなかった顧問が主将ショータに「その後の部活はどう？」とメールすると、「ブラタイ[アップの体操]をはじめとして、練習に向かう態度や反省[練習終了時のセレモニー]のときなど細かい面で変わったと思います。一時だけにならないで保っていけるようにしたいです。」との返信がありました！ 全員再入部したのかどうか、注目していた皆様、とりあえず全員で再出発いたしましたので、変わらぬご支援をお願いします。

⁴ 名前がマツ△コウ○イなのですが、○のところに別な言葉を入れると、もう一人の一年生部員となります。すなわち、名前が紛らわしい(親御さんごめんなさい)！ ゆえ、髪型が演歌歌手のような角刈りであることから、当初エンカとあだ名され、演歌歌手と言ったらやはり北島三郎だろうということから、サブちゃんとなり、定着いたしました。もう一人のマツ△コウ○イは往年のコロンビア代表の名GKの名前を(なぜか)取り、イギータとなっております。県内の対戦相手から、「メンバー表(の正式な名前)とコーチングに際してのベンチからの呼び名とが違うから、誰に指示しているか分からない。攪乱させるのは止めてくれないか」と冗談交じりのクレームを受けたことがあります。山東のあだ名はやむにやまれぬ事情がある、と一応言っておきます。

⁵ (顧問がジミケンとのあだ名を流行らせようとしているが難航中の)クサジマとケイシの2名のみ、残念ながら故障や体調不良により出場はかないませんでした。